

**株式会社 有田屋**

## **環境経営レポート**

対象期間:2021年4月1日~2022年3月31日

発行:2022年6月30日



# 目次

- 1.組織の概要
- 2.環境経営方針
- 3.環境経営目標
- 4.環境活動計画
- 5.環境目標の実績
- 6.環境活動計画の取り組み結果と評価、次年度  
の取り組み
- 7.緊急事態への準備、及び対応
- 8.環境関連法規等の遵守状況の確認
- 9.代表者による全体評価と見直しの結果
- 10.組織の概要

# 1.組織の概要

## 【1】会社概要

株式会社有田屋

代表取締役 佐藤彰

### 所在地

本社 岩手県北上市鍛冶町三丁目 2 番 47 号  
鬼柳プラント 岩手県北上市鬼柳町上鬼柳 5 地割 35 番 1,37,54,55  
稲瀬プラント 岩手県北上市稲瀬町福田地 55 番 4,56 番 2  
鷹鳥羽プラント 岩手県北上市鬼柳町鷹鳥羽 117 番 2

### 環境管理責任者氏名及び連絡先

責任者	取締役	佐藤 功樹	TEL : 0197-64-6400
環境事務局	取締役	佐藤 功樹	TEL : 0197-64-6400
環境事務局 (補佐)		高橋 明子	TEL : 0197-64-6400

### 事業内容

産業廃棄物収集運搬、産業廃棄物中間処理  
特別管理産業廃棄物(医療系廃棄物を含む)収集運搬、特別管理産業廃棄物中間処理  
一般廃棄物収集運搬、一般廃棄物中間処理  
ビル管理業務

### 事業規模

収集運搬量	2,696.623 トン
中間処理量	3,837.765 トン
中間処理後処分量	916.73 トン
一般廃棄物収集運搬量	2,213.50 トン
従業員数(パート従業員含)	53 名(2022 年 3 月末日現在)

### 事業所の延床面積

本社	175 m <sup>2</sup>
鬼柳プラント	5624 m <sup>2</sup>
稲瀬プラント	2700 m <sup>2</sup>
鷹鳥羽プラント	1318 m <sup>2</sup>

法人設立年月日

昭和 49 年 2 月 10 日

資本金

1000 万円

事業年度:7 月～翌年 6 月

※産業廃棄物の収集運搬、処分の県への実績報告とデータを連動させるために、EA21 の年度を、4 月 1 日～翌年 3 月 31 日として取り組んでいる。

## 【2】対象範囲、レポートの対象期間

### (1)対象範囲

対象組織：本社、鬼柳プラント、稲瀬プラント、鷹鳥羽プラント

対象活動:

産業廃棄物の収集運搬、及び中間処分

特別管理産業廃棄物の収集運搬、及び中間処分

一般廃棄物の収集運搬、及び中間処分

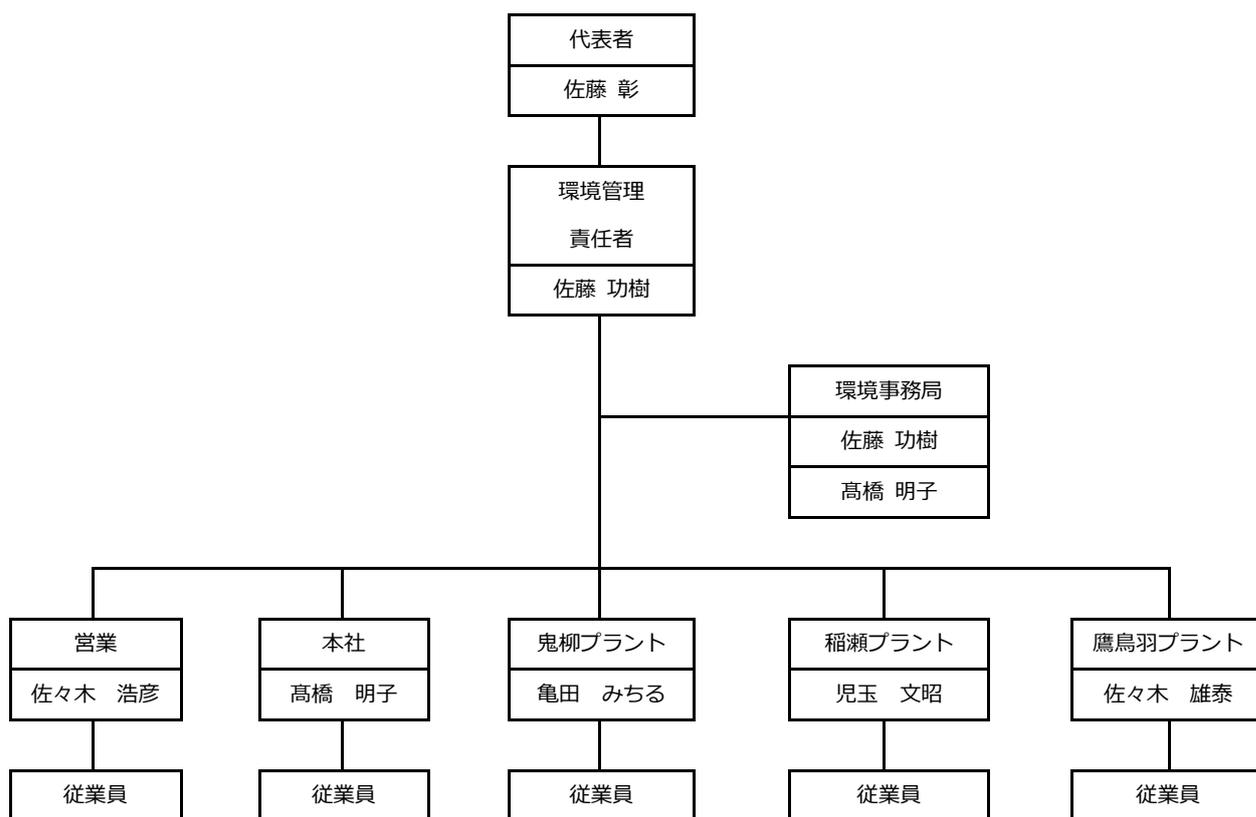
対象範囲の人員 53 人(2021 年 3 月末日現在)

### (2)レポートの対象期間及び発行日

1.レポート対象期間： 2021 年 4 月 ～ 2022 年 3 月

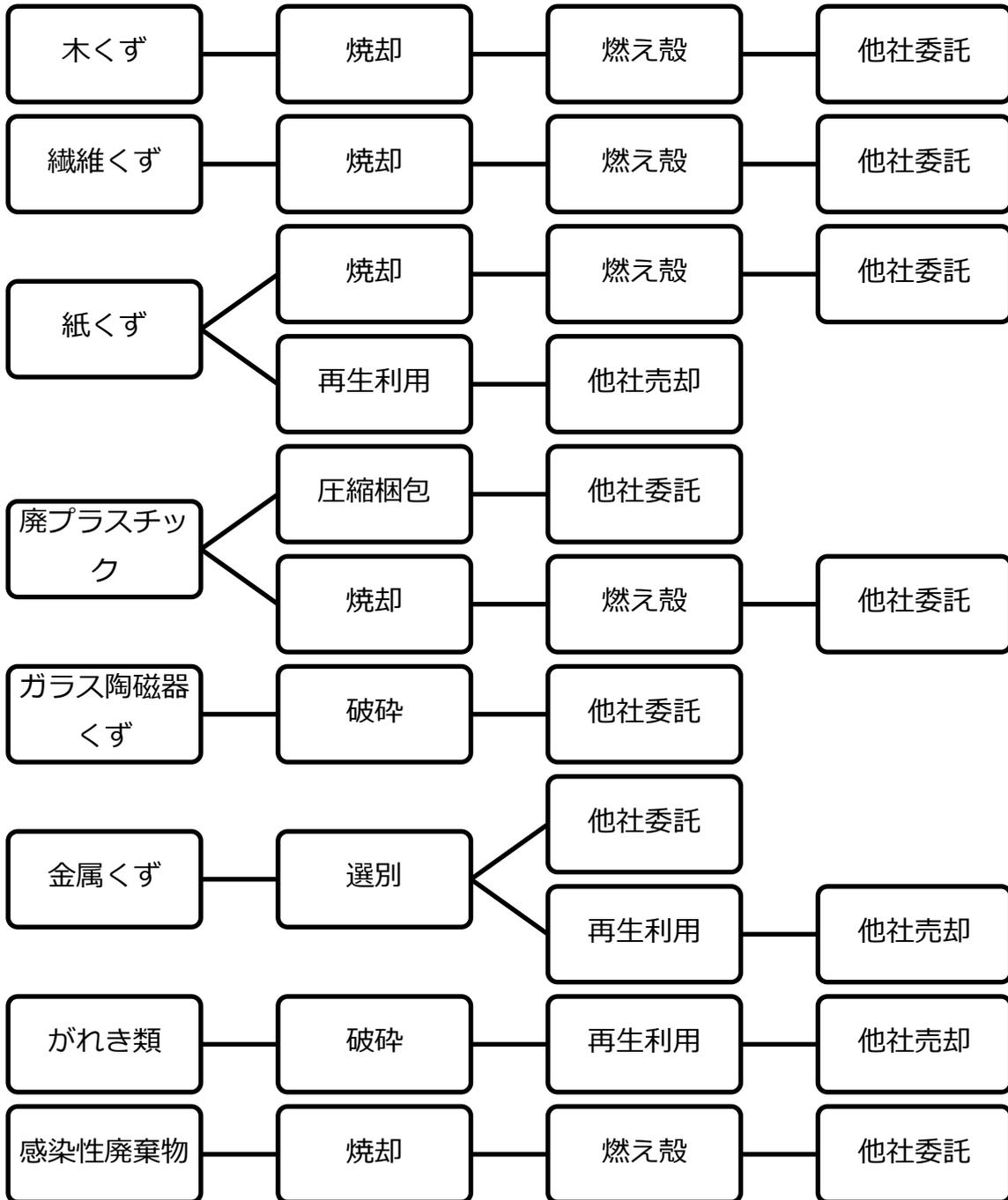
2.発行日： 2022 年 6 月 30 日

【3】 実施体制



	役割・責任・権限
代表者（社長）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営に関する統括責任</li> <li>・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備</li> <li>・環境管理責任者を任命</li> <li>・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知</li> <li>・環境目標・環境活動計画書を承認</li> <li>・代表者による全体の評価と見直しを実施</li> <li>・環境経営レポートの承認</li> <li>・経営における課題とチャンスを整理し、明確にする</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営システムの構築、実施、管理</li> <li>・環境関連法規等の取りまとめ表を承認</li> <li>・環境目標・環境活動計画書を確認</li> <li>・環境活動の取組結果を代表者へ報告</li> <li>・環境経営レポートの確認</li> </ul>
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境管理責任者の補佐、EA21 推進委員会の事務局</li> <li>・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施</li> <li>・環境目標、環境活動計画書原案の作成</li> <li>・環境活動の実績集計</li> <li>・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理</li> <li>・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施</li> <li>・環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> <li>・環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）</li> </ul>
部門長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自部門における環境方針の周知</li> <li>・自部門の従業員に対する教育訓練の実施</li> <li>・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>・時部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施</li> <li>・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成</li> <li>・試行・訓練を実施、記録の作成</li> <li>・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚</li> <li>・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加</li> </ul>

【4】 処理工程図



## 2.環境経営方針

### 基本理念

株式会社有田屋は岩手県北上市に位置し、鬼柳プラント、稲瀬プラント及び、鷹鳥羽プラントにおいて、産業廃棄物中間処理業、及び収集運搬業を通じて、地球温暖化問題へ取り組み、地域の環境活動に自主的・積極的に取り組みます。

### 環境方針

1. 環境関連法規を遵守し、必要な教育、訓練を実施します
2. 事業活動における二酸化炭素排出量の削減を推進します
3. 事業活動で排出される廃棄物の削減及び、再生利用率の向上を推進します
4. 事業活動における排水量の削減を推進します
5. 事業活動における化学物質排出量を適正に管理します
6. 事業活動におけるグリーン購入、グリーン調達の比率の向上を推進します
7. 産業廃棄物処分業、及び収集運搬業において、環境負荷を低減するため業務効率化を推進します
8. 地域と連携をとり、環境保全活動に積極的に参加します

改定日：2015年11月2日

株式会社有田屋  
代表取締役 佐藤 彰

### 3.環境経営目標

短期及び中期環境目標

事業年度：7月～翌年6月 2021年度 = 2021年4月1日～2022年3月31日

項目		単位	基準	短期	中期	
			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
電力	使用量削減	kwh	523118 基準	517887 -1%	512656 -2%	507424 -3%
	CO2 排出量削減	kg-CO2	264175	261533	258891	256249
ガソリン 軽油	使用量削減	L	7285 89314 基準	7208 88421 -1%	7139 87528 -2%	7066 86635 -3%
	CO2 排出量削減	kg-CO2	251303	248790	246277	243764
重油	使用量削減	L	306000 基準	302940 -1%	299880 -2%	296820 -3%
	CO2 排出量削減	kg-CO2	829260	820967	812674	804382
一般廃棄物の削減		Kg	233 基準	231 -1%	228 -2%	225.6 -3%
廃プラスチックの削減		kg	46 基準	45.5 -1%	44.6 -2%	44.16 -3%
水使用量削減		m <sup>3</sup>	802 基準	794 -1%	786 -2%	778 -3%

※電力については、東北電力 H27 年度 11 月公表排出係数 0.505(kg-co2/kwh)を用いて算出する。

軽油の排出係数は 2.26、重油の排出係数は 2.71 として算出する。

化学物質は使用していないため、目標設定を行わない。

## 4.環境経営計画

項目	具体的活動内容
電力使用量の削減	表示によって目標値の徹底 空調温度の適正化(冷房 28℃ 暖房 18℃) 溶融施設待機時間の短縮 クールビズ、ウォームビズの取り組み
自動車燃料の削減	効率的なルートでの回収を推進する。 営業活動の見直しを行う。 エコドライブの徹底を推進する。 車両点検の定期的な実施。
重油の削減	温度制御装置の点検 焼却炉の 24 時間稼働 焼却炉のメンテナンス 使用量を厳密測定し、削減の可能性を検討
一般廃棄物の削減	分別を徹底する。 シュレッダーにかけた廃紙をリサイクルする。 従業員が各自持ち帰る。
廃プラスチックの削減	資源としての分別を徹底する。 リサイクルに積極的に取り組む
排水量の削減	節水シールの貼り付けとポスター掲示 施設内の設備の点検 トイレ設備についての見直し
グリーン購入の向上	有害性の少ない資材を購入する 事務用品においてグリーン購入を推進する。 燃費のよい車両を購入する。 グリーン購入への情報収集
社会貢献	地域内での草刈り、ごみ拾いを継続する。 地域内での除雪活動を行う

## 5.環境目標の実績

項目		単位	2021 年度 目標	2021 年度 実績
電力	使用量削減	kwh	512656 (基準年度比-2%)	605,833 -
	CO2 排出量削減	kg-CO2	261533	305,946
ガソリン	使用量削減	L	7139 (基準年度比-2%)	4,675 -
軽油	使用量削減	L	87528 (基準年度比-2%)	96,207
	CO2 排出量削減	kg-CO2	246277	263333
重油	使用量削減	L	299880 (基準年度比-2%)	142000 -
	CO2 排出量削減	kg-CO2	812674	384820
合計 CO2	CO2 排出量	kg-CO2	1320484	954099
一般廃棄物の削減		kg	228 (基準年度比-2%)	32
廃プラスチックの削減		kg	44.6 (基準年度比-2%)	39
水使用量削減		m <sup>3</sup>	786 (基準年度比-2%)	738 -

※電力については、東北電力 H27 年度 11 月排出係数 0.505(kg-co2/kwh)を用いて算出する。

軽油の排出係数は 2.62、重油の排出係数は 2.71 として算出する。

## 6.環境活動計画の取り組み結果と評価、次年度 の取り組み

活動計画内容	取組結果	評価	コメント
電力使用量の削減	表示によって目標値の徹底	△	取り組みについて、不十分な結果となりました。
	空調温度の適正化（冷房 28℃ 暖房 18℃）	△	
	溶融施設待機時間の短縮	△	
	クールビズ、ウォームビズの取り組み	○	
自動車燃料の削減	効率的なルートでの回収を推進する	△	回収コースおよび営業活動について見直しを行います。
	営業活動の見直しを行う	△	
	エコドライブの徹底を推進する	○	
	車両点検の定期的な実施	○	
重油の削減	温度制御装置の点検	○	取り組みは十分に実施されました。
	焼却炉の 24 時間稼働	○	
	焼却炉のメンテナンス	○	
	使用量の厳密な測定	○	
一般廃棄物の削減	分別を徹底する	○	現状維持を目標として、取り組まれていました
	シュレッドした廃紙をリサイクルする	○	
	従業員が各自持ち帰る	○	
廃プラスチックの削減	資源としての分別の徹底	○	現状維持で取り組まれています
	従業員が各自持ち帰る	○	
排水量の削減	節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	トイレについて、一部改修しました。
	施設内の整備の点検	○	
	トイレ設備についての見直し	○	
グリーン購入の向上	有害性の少ない資材を購入する	○	より一層取り組みを拡大していきます。
	事務用品においてグリーン購入を推進する	○	
	燃費のよい車両を購入する	○	
社会貢献	地域内での草刈り、ごみ拾いを継続する	○	達成できました。
	地域内での除雪活動を行う	○	

○:実行できた △:実行したが不十分 ×:実行できなかった

\*評価日:2022年6月30日

※次回評価日は、2022年10月1日

**・次年度取り組み内容**

1. 各種の事務機材を更新し、効率化を図る。
2. 各施設においてLED照明の導入を推進する。
3. 施設の定期メンテナンスを継続する。
- 4.各種車輛について、タイヤ、エンジンなどについて定期的なメンテナンスを行い効率の良い運転を実施する。
- 5.月ごとの電気、軽油、重油の使用量を厳密に測定して、使用量削減可能な点がないかを確認する。
- 6.県の補助金制度を活用して、事務所のエアコン設備を更新する。
7. 水使用量の削減については、トイレ設備の更新などで対応する。
- 8.エコマーク、グリーンマーク商品について、情報収集してグリーン購入につなげる。

## 7.緊急事態への準備、及び対応

### (1)試行・訓練の内容

有田屋、鬼柳プラントにおける消防総合訓練

### (2)実施日時

2022年4月15日 15時30分～16時00分

### (3)参加人数

10名(鬼柳、稲瀬、営業部門、医療系ドライバー等複数部門の人員を含む)

### (4)担当部署・責任者

営業 佐々木 雄泰

### (5)試行・訓練結果の評価

今年度の総合訓練につきましては現場の従業員に、初期消火、搬送、通報、避難、社内伝達などを周知することができました。

### (6)以後の対策と手順書の必要性の有無

来年度以降も、定期訓練を実施します。手順書は来年度も同じ物を継続使用します。

### (7)その他

2021年度(2021年4月1日から2022年3月31日)においては、COVID-19感染症の感染状況を鑑み、消防訓練の実施を延期しました。直近の訓練について記載しました。

### (8)当日の様子



## 8.環境関連法規等の遵守状況の確認

環境関連法令	対象		遵守状況
環境基本法	基本理念	産業廃棄物(特別管理) 排出者・収集運搬・中間処理	遵守
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	排出から処分までの運用	産業廃棄物(特別管理) 排出者・収集運搬・中間処理	遵守
大気汚染防止法	運搬車両・処分施設	産業廃棄物(特別管理) 収集運搬・中間処理	遵守
騒音規制法	運搬車両・処分施設	産業廃棄物(特別管理) 収集運搬・中間処理	遵守
振動規制法	運搬車両・処分施設	産業廃棄物(特別管理) 収集運搬・中間処理	遵守
水質汚濁防止法	運搬車両・処分施設	産業廃棄物(特別管理) 収集運搬・中間処理	遵守
土壌汚染対策法	運搬車両・処分施設	産業廃棄物(特別管理) 収集運搬・中間処理	遵守
悪臭防止法	運搬車両・処分施設	産業廃棄物(特別管理) 収集運搬・中間処理	遵守
ダイオキシン類対策特別措置法	処分施設	産業廃棄物(特別管理) 中間処理	遵守
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律	運搬・処分に関する管理	産業廃棄物(特別管理) 収集運搬・中間処理	遵守
特定家庭用機器再商品化法	運搬に関する管理	産業廃棄物(特別管理) 収集運搬	遵守
岩手県 廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行条例	基本理念・排出から処分までの運用	産業廃棄物(特別管理) 排出者・収集運搬・中間処理	遵守
岩手県 廃棄物の処理及び清掃に関する法律施工細則	収集運搬、中間処理実績の報告	産業廃棄物(特別管理) 収集運搬、中間処理	遵守
岩手県 循環型地域社会の形成に関する条例	基本理念・排出から処分までの運用	産業廃棄物(特別管理) 排出者・収集運搬・中間処理	遵守
消防法	火災防止・危険物の管理	事業所全体として	要改善

道路交通法	違反防止・車輛管理	事業所全体として	遵守
労働安全衛生法	労災防止・安全管理	事業所全体として	遵守
家電リサイクル法	排出、処分	事業所全体として	遵守
小型家電リサイクル法	排出、処分	事業所全体として	遵守

## 9.代表者による全体評価と見直しの結果

2021年度のエコアクション21の取り組みも無事に完了しました。

2021年度は、2019年度を基準としての活動の2年目に当たります。

資源消費量のデータ記録では、電力使用量と軽油の使用量が目標を達成出来ませんでした。

これ以外についてのガソリン、重油、灯油、水、一般廃棄物の自社排出量、廃プラスチックの自社排出量、グリーン購入の比率などについては、達成することが出来ました。

目標達成を出来ている部分については、計測と管理体制について、堅牢な体制作りを推し進めて参ります。

軽油の使用量について、各プラントの重機、および回収車両にての使用が主となっています。軽油の使用量として、稲瀬での使用量が増加していることが大きな影響となっております。また一方で、鷹鳥羽の一般廃棄物回収では2019年から収集運搬量が低下しながら、燃料の使用量がやや増えておりますので、燃費は下がっていると結論づけられます。車両数が増えている事およびリサイクルへ回される一般廃棄物の割合が増加している事を踏まえて今後の軽油使用について見直しが必要と考えます。

電力の使用量について全体としての増加が見られました。鬼柳プラントと鷹鳥羽プラントでの使用量が減少、稲瀬プラントと事務所で使用量が増加となりました。

稲瀬プラントにおける電力量と処理量の関係は連続焼却を行うことで効率化を目指していきます。事務所においては空調設備を岩手県の補助金制度を活用して更新を行うことを次年度の目標としております。

また、2021年1月から鬼柳と鷹鳥羽を、新電力に切り替えたため、一時的に支払い料金は下がったものの、昨今の物価の変動や社会情勢のため契約していた新電力会社が撤退することを宣言しました。このため再度電力の契約を変更する必要があります。エネルギーのコストについて不透明な状況が続いております。手近な範囲内で可能な業務の効率化を進めわずかでも経費削減、CO2排出削減につなげていきたいと考えております。

2021年度での効率化につながる点として稲瀬プラントの足場の舗装を行いました。この結果構内での車両の移動がスムーズになりました。

また鷹鳥羽プラントにおいて2021年12月ごろより施設内の整頓と整備を進めております。不要物の廃棄、備品在庫の確認を行った後に構内の作業動線の見直しに繋げていく計画です。

日々の活動を通じて、環境への取り組みを積み重ねていくことにより、よりエコアクション21の理念を体現した企業へと近づいていけるよう、従業員一同推進してまいります。

2022年度では、人員配置の見直し、各施設の設備更新、業務手順の変更とマニュアル化を主眼に据えて、活動してまいります。

環境経営方針、実施体制、環境経営目標については、変更なしで継続します。

# 10.組織の概要

①法人設立年月日、資本金、売上高、組織図

法人設立年月日

昭和 49 年 2 月 10 日

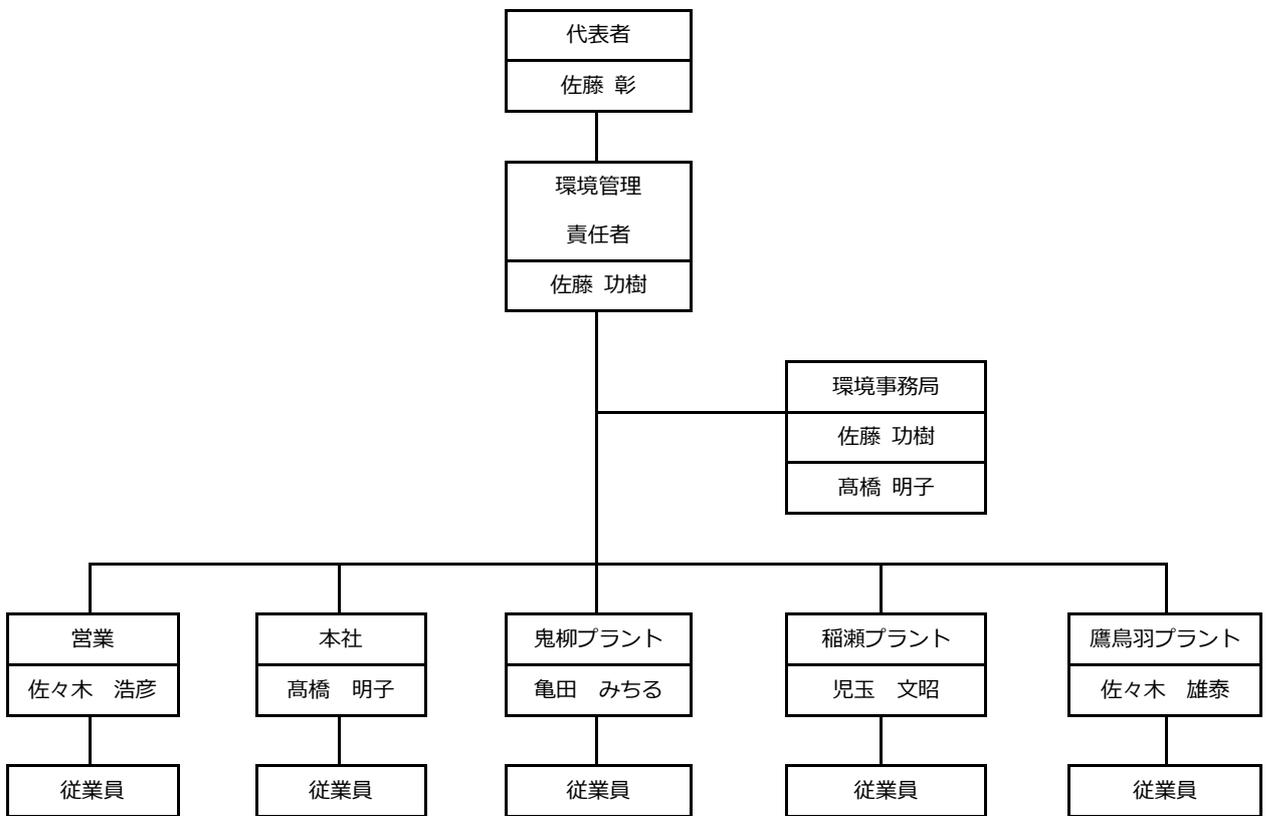
資本金

1000 万円

売上

37899.8 万円(47 期 2020 年 7 月-2021 年 6 月期)

組織図



②産業廃棄物処理業、一般廃棄物処理業における施設などの状況

一廃回収車両

車名	積載量	構造・仕様
日野	2,000 k g	塵芥車
いすゞ	2,750 k g	塵芥車

日野	4,000 k g	脱着装置付コンテナ専用車
日野	4,000 k g	脱着装置付コンテナ専用車
日野	4,000 k g	脱着装置付コンテナ専用車
トヨタ	2,000 kg	バン
いすゞ	2,650 k g	塵芥車
ダイハツ	350 kg	キャブオーバー
トヨタ	3,000 k g	バン
いすゞ	1,800 k g	塵芥車
トヨタ	3,000 k g	バン
日野	3,000 k g	バン
ニッサンディーゼル	1,750 k g	塵芥車
三菱	4,850 kg	塵芥車
いすゞ	3,100 kg	塵芥車
トヨタ	3,000 k g	バン

以上 16 台

産廃回収車両(上記回収車両と重複あり)

車名	積載量	構造・仕様
ハイゼット	350 k g	トラック

日野	2,600 k g	ユニック
日野	4,000 k g	脱着装置付コンテナ専用車
日野	4,000 k g	脱着装置付コンテナ専用車
日野	4,000 k g	脱着装置付コンテナ専用車
日野	3,000 kg	バン
スバル	350kg	トラック
日野	10,100kg	ロングトラック
トヨタ	2,000kg	バン

以上 9 台

#### 処理施設の概要

施設の種類	処理廃棄物の種類	処理能力	処理方式
圧縮梱包施設	廃プラスチック・紙くず	5t/日	圧縮梱包
焼却施設Ⅰ	紙くず・木くず・繊維くず・動植物性残さ	1.5t/日(0.188t/時間)	焼却
焼却施設Ⅱ	廃酸・廃アルカリ・紙くず・木くず・繊維くず・動植物性残さ・ゴムくず・金属くず・ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず	46.56/日(1.94t/時間)	焼却
選別施設	金属くず	138.4 m <sup>3</sup> /日(17.3 m <sup>3</sup> /時間)	選別

破砕施設	ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず・がれき類	236.8t/日(29.6t/時間)	破砕
破砕固形化施設	廃プラスチック・紙くず	1.5t/時間	破砕固形化

保管施設の概要(収集運搬)

保管面積	廃棄物の種類	保管上限量
103 m <sup>2</sup>	金属くず	121 m <sup>3</sup>
50 m <sup>2</sup>	ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず	24 m <sup>3</sup>

保管施設の概要(処分)

保管施設 I	圧縮梱包に関するもの					
	廃棄物の種類	保管高さ(m)	保管面積(m <sup>2</sup> )	保管体積(m <sup>3</sup> )	保管重量(t)	備考
処分のための保管	廃プラスチック類	-	68.2	243	36.45	建屋内
	紙くず	-	13.68	16	3.2	屋外、容器保管
	廃プラスチック類	-	31.5	94.5	39.6	建屋内
	紙くず	-	31.5	94.5	39.6	建屋内
保管施設 II	焼却施設 I 及び破砕・固形化に関するもの					
	廃プラスチック(圧縮)	-	37	16	-	分別ヤード、建屋内
	廃プラスチック類(固形化)	-	18	8	-	分別ヤード、建屋内
	紙くず	-	29	16	-	分別ヤード、建屋内
	廃プラスチック類	-	31.5	94.5	-	圧縮梱包品建屋、建屋内
	紙くず	-	31.5	94.5	-	圧縮梱包品建屋、建屋内

保管施設 Ⅲ	焼却施設 Ⅰに関するもの	-				
	木くず、繊維くず	-	100	125	-	焼却ドーム、建屋内
保管施設 Ⅳ	破碎施設に関するもの	-				
処分のための保管	ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず・がれき類	3.8	263.5	414.52	-	屋外保管
		2.5	150	125	-	屋外保管
処分後の保管	ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず・がれき類	2.3	132	101.2	-	屋外保管
保管施設 Ⅴ	焼却施設 Ⅱに関するもの	-				
処分のための保管	廃プラスチック類	2.0	12.0	12.0	4.2	屋内、鉄筋コンクリート
	木くず	2.0	8.0	8.0	4.4	屋内、鉄筋コンクリート
	紙くず	1.25	7.5	4.68	1.404	屋内、鉄筋コンクリート
	繊維くず	1.25	5.0	3.12	0.3744	屋内、鉄筋コンクリート
	廃油	-	1.06	1.95	1.75	屋内、鋼板製タンク
	廃酸	-	1.55	2	2	屋内樹脂製タンク
	廃アルカリ	-	1.55	2	2	屋内、樹脂製タンク

処分後の保管	燃え殻	-	6.69	8.03	-	屋内鋼板製コンテナ
	ばいじん	-	6.69	8.03	-	屋内鋼板製コンテナ
<b>特別管理産業廃棄物</b>						
処分のための保管	感染性廃棄物	2.375	28.25	67.11	10.0	-
	廃油(揮発油類、灯油類及び軽油類に限る)	-	0.44	0.39	0.31	屋内、鋼板製タンク
処分後の保管	燃え殻	-	6.60	8.03	-	屋内鋼板製コンテナ
	ばいじん	-	6.60	8.03	-	屋内鋼板製コンテナ

③産業廃棄物処理業の許可の状況

許可名	許可番号	許可の開始	許可の期限
<b>産業廃棄物収集運搬業</b>	<b>第 00312013134 号</b>	<b>令和 3 年 11 月 7 日</b>	<b>令和 8 年 11 月 6 日</b>
事業の範囲	燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず、陶磁器くず、がれき類、ばいじん	積替え、保管を含むもの	金属くず、ガラスくず、コンクリートくず、陶磁器くず
<b>産業廃棄物処分業</b>	<b>第 00322013134 号</b>	<b>令和 3 年 11 月 7 日</b>	<b>令和 8 年 11 月 6 日</b>
事業の範囲	取扱う産業廃棄物		
圧縮梱包	廃プラスチック類、紙くず		
焼却処理	汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙く		

	ず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず、陶磁器くず		
選別処理	金属くず		
破碎処理	ラスくず、コンクリートくず、陶磁器くず、がれき類		
破碎固形化処理	廃プラスチック類、紙くず		
<b>特別管理産業廃棄物収集運搬業</b>	<b>第 00352013134 号</b>	<b>平成 30 年 12 月 27 日</b>	<b>平成 35 年 12 月 26 日</b>
事業の範囲	廃油、廃酸、廃アルカリ、汚泥、感染性廃棄物		
<b>特別管理産業廃棄物処分業</b>	<b>第 00372013134 号</b>	<b>令和元年 8 月 3 日</b>	<b>令和 6 年 8 月 2 日</b>
事業の範囲	取扱う産業廃棄物		
焼却処理	廃油、感染性産業廃棄物		
<b>一般廃棄物収取運搬業</b>	<b>第 552 号</b>	<b>令和 4 年 7 月 4 日</b>	<b>令和 6 年 7 月 3 日</b>
積替え保管施設	廃棄物の種類	保管面積(m <sup>2</sup> )	保管量(m <sup>3</sup> )
分別ヤード	プラスチック類、ペットボトル	20	40
	新聞、雑誌、その他紙類	20	40
	ダンボール類	20	40
ビン保管コンテナ 12 個	ビン	-	24
	缶	18.3	36.6
	乾電池、蛍光灯	18.3	36.6
	リサイクル家電 4 品目	14.09	31.7
<b>一般廃棄物処分業</b>	<b>第 528 号</b>	<b>令和 2 年 12 月 10 日</b>	<b>令和 4 年 12 月 9 日</b>
施設の種類の	廃棄物の種類	処理能力	処理方法
発泡スチロール溶融固化施設	発泡スチロール	60-80kg/h	溶融固化
缶選別機	缶	4.4t/日	選別
焼却施設	感染性一般廃棄物	208kg/h	焼却
処理工程図			
発泡スチロール→溶融固化→	インゴットとして売却		
缶→選別→アルミ缶→圧縮梱包→	売却		
→スチール缶→売却			

感染性一廃廃棄物→焼却→燃え殻 →埋め立て施設へ		
--------------------------	--	--

④産業廃棄物処理実績

廃棄物の種類	単位	収集運搬量
燃え殻	t	315.220
汚泥	t	6.526
廃酸	t	0.065
廃プラスチック	t	1,153.051
紙くず	t	57.958
木くず	t	108.921
繊維くず	t	0.000
動植物性残さ	t	121.300
金属くず	t	224.311
ガラス陶磁器くず	t	154.883
がれき類	t	49.124
ばいじん	t	169.780
引火性廃油	t	5.408
感染性廃棄物	t	330.076
合計	t	2,696.623

(ii) 中間処理

	廃棄物の種類	処理方法等	単位	処理量
中間処理	汚泥	焼却	t	18.336
	廃油	焼却	t	3.063
	廃酸	焼却	t	28.664
	廃アルカリ	焼却	t	18.334
	廃プラスチック	焼却	t	1,252.007
	廃プラスチック	圧縮梱包	t	528.087
	紙くず	焼却	t	360.592
	木くず	焼却	t	290.237
	繊維くず	焼却	t	83.454
	動植物性残さ	焼却	t	33.480
	金属	焼却	t	0.018
	金属	選別	t	228.225
	ガラス陶磁器	焼却	t	38.012

	ガラス陶磁器	破碎	t	83.956
	がれき類	破碎	t	12.432
	引火性廃油	焼却	t	8.894
	感染性廃棄物	焼却	t	849.974
再資源化等 うち	金属	選別後売却	t	228.225
			t	
	小計		t	228.225
合計			t	3,837.765

産業廃棄物 中間処理後の	最終処分	廃棄物の種類	処理方法等	単位	処分量等	
			燃え殻	埋立	t	296.55
			ばいじん	埋立	t	172.17
			廃プラスチック	埋立	t	374.10
			ガラス陶磁器	埋立	t	59.35
			がれき類	埋立	t	14.56
		小計			t	916.73
(再資源化等) 中間処理		廃棄物の種類	処理方法等	単位	処理量等	
		金属	選別後売却	t	228.23	
				t		
				t		
		小計			t	228.23
合計				t	1,144.955	